

# 町家ペンキ塗り替えボランティア活動 2001年 in HAKODATE

■ 2001年9月8日(土)、9日(日) ■



before



after



←左

(19) 瀬戸家住宅：1950(昭和25)年頃、青柳町15-15

【塗り替えの配色】外壁下見板：淡い黄色、窓枠・柱・小庇等：こげ茶色、軒蛇腹・軒天井：白色の3色

右→

(20) NPO法人ファミリーサポーターさわやか事務所：1934(昭和9)年、栄町9-6

【塗り替えの配色】外壁下見板：ピンク色、窓枠・柱・小庇等：茶色、軒蛇腹・軒天井等：白色、玄関庇の肘木等：赤色の4色



before



after



●塗り替え対象物件の選定理由：昨年公募のあった建物のうち、有力候補であったが選定優先基準に該当しなかったため惜しくも対象外とした、青柳町の瀬戸家住宅をまず1件目に選んだ。また、今回の函館からトラスの助成に際して、自分の事務所のペンキ塗り替えをおこなうという活動で応募したNPOがあったが、我々と類似のテーマであったため、我々は選ばれたが後のNPOは選ばれなかった。その後、からトラス事務局より、我々と彼のNPOが協力しあって活動を進めるよう助言があったので、そのNPOの事務所である、栄町の「NPO法人ファミリーサポーターさわやか事務所」を2件目に選んだ。

●塗り替える色の方針：瀬戸家住宅は、道路が交錯する敷地の角という特徴的な場所にあり、外壁の淡い黄色と植栽の緑がシンボリックな意味合いをもちながら、背景の函館山や周囲の町並みとよく調和していたので、現状の淡い黄色を外壁の基調色とし、窓枠・柱・小庇等をこげ茶色の落ち着いた配色とし、軒蛇腹・軒天井を白色の3色に塗り分けることにした。NPO法人ファミリーサポーターさわやか事務所は、従前の色が西部地区の特徴的な色の一つである淡いピンク色であったので、これを尊重し、外壁の基調色とし、窓枠・柱・小庇等を茶色、軒蛇腹・軒天井等を白色の3色に塗り分け、さらに立派な玄関庇の肘木等を形構的にも色彩的にもアクセントになるものとして赤色に塗ることとした。

【参加者】ペンキ塗りボランティア代表・植松肇治、西山健一、釜山昌代（以上北海道大学大学院工学研究科在籍院計画学分野・修士課程1年）、丸 植高、田中 宏、山下篤行（以上北海道大学大学院工学研究科在籍院計画学分野・修士課程2年）、菊島圭司、吉村有人（以上北海道大学工学部建築都市学科在籍院計画学分野・4年）、森下 浩（北海道大学大学院工学研究科在籍院計画学分野・助手）、奥地憲一、奥地高二、木村友美、小杉輝弘、青藤高也、比々木智之、杉田 愛、田山海文、中村伸二、春山直樹（以上函館工業高等専門学校・学生）、藤澤雅吉（函館工業高等専門学校・教授）、伊藤科孝、今津謙之、加賀谷龍太、加藤 卓、野瀬和宏、松谷信幸（以上函館工業高校・3年）、井上明菜、辻藤貴尚、澤田洋次、橋本真樹、歩仁内実美（以上北海道教育大学函館校・1年）、大田誠一（元町倶楽部）、関 有純（函館からトラス事務局）、中村幸子（小倉工務店）、藤合大亮、小野江広恵子、片谷孝子（以上一般参加）、以上17名

【協力者】瀬戸（建物所有者、昼食の差し入れ）、NPO法人ファミリーサポーターさわやか（建物所有者、塗る物の差し入れ）、函館工業専門学校建築科教諭・吉村富士夫（函館工業高校生のボランティア手配）、道庁海防（函館高等学校生のボランティア手配、女子学生の宿泊受け入れ）、函小倉工務店（足場の手配）、日本ペイント販売北海道・米沢隆夫（ペンキ塗料の手配）、鎌倉崎+河内昌子（足場の交渉、ハケ等ペンキ用具の保管、軽トラック）、大田誠一（所有者との色の相談・決裁、男子学生の宿泊受け入れ）、元町倶楽部・山本真由（北海道教育大学函館校学生のボランティア手配）

※以上敬称略